

ヒール・ミヤイはたった400円のお金でござ腹なのです。

農業のお仕事は多種多様だが、そのなかでも農作業と並んで水田用の水路である水路や河川管理は実務として大切な仕事である。

まず、4月下旬から5月の連休中には地域の農家が集まり、まだ水が入っていない水路に入り泥やゴミさらいをし、5月15日ころの通水時期を待つ。6月10日前後の日曜日は1回目の水路両サイドの草刈があり、2回目は8月上旬になる。以前はカマや刈払機でやっていたが、この20年は除草剤散布がメインになった。このように地目が水田であれば、コメ以外に転作をするか、しないのかは関係なく、共同か個人で公共施設を管理・指導する団体が土地改良区である。正しくは水土里ネットというが、ここでは一般的な呼び方である土地改良区の名称を使う。今回はこの組織の糾弾話ではない。とつても面白く、おかしく、**進化を認めない土地改良区の下部組織のお話**である。長沼には20を超える支線と呼ばれる水路が張り巡らされ、その支流には分区分区と呼ばれる小さな水路があり、各農家には分派と呼ばれるもつと小さな水路がある。エグくてケチイ400円の話はこれから。

私の農場にも水路があり、親の代からその維持管理をすること何の疑いもなく、記帳記録がある1968年より水路の生産者組織である旧13支線にはヘクター当たり200円、現在の24支線には同400円を徴収されていた。私の農場の一部が所属している24支線の8分区分には私を含め7軒が営農していて、ヘクター当たり400円、分区分面積が45haなので合計1万8000円が徴収されて24支線の会計の元に届けられる。ここまでだと、よくある町内会の集金作業と思われるだろう。もう少し詳しく説明する。

この24支線8分区分の7名が周り番で年末に現金を集めるのだが、携帯電話のご時世であっても誰かが自宅にいなければ現金は徴収できない。そこで、昨年12月20日18時に西長沼会館に各分区分の会計が集まった折に、私は「これからは振込にしてもらったほうが良いのではないか？」と発言した。例えば、私が住む地区の区費（町内会費）は依頼書に印鑑

Vol.70 24支線・8分区分 やめますから……



宮井能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

Illustration by Kazushige Akita

を押すだけで農協の組織で徴収されている、などと説明しても動じる雰囲気はまったく感じられなかった。支線長と会計は、あーだの、こーだのと言つて**集金方法の変更を認めようとはしない**。挙句の果てに会計は私に「集めたお金をどこに振り込むのですか？」と不自然な質問をした。私は「今、会計がお待ち通帳です」と答えたが、会計は「あなたが勝手に

オレにも 言わせる! 北海道長沼発 ヒール宮井の憎まれ口通信

に振り込んできても、手当として差し上げるお金は、直接、会計に来ていただければ領収書は出ませんね」と、どうしても現金主義を貫こうとした。ついに喧々囂々を越して怒涛のごとく響き渡る質疑応答になってしまった。そこで少し大人の対応を見せようと私は「ところで**集まったお金の使い道はどうなっているのですか?**」と聞いてみたが、ペットボトルのお茶も出ない良識ある質素な会合なのだから、マトモな答えが返ってくると思っていたら「**えーと、それは、んー、**新年会で伝えます」と明確な回答をいただけなかった。

私が8分区の連絡・会計担当だった昨年の手当では5000円がベイスで7名から集金するので別途7000円、合計1万2000円渡された。分区の7名から徴収した1万8000円から1万2000円を差し引いた、6000円を、不思議ちゃん

の組織に奉納するのだったら初めから6000円だけを徴収しても良いのではないかと思った。

昨年、土地改良区からは草刈費用として6万8164円とサイフォン等監視委託費として12万7000円、計19万5164円が24支線に振り込まれている。ということは仮に支線が10カ所あり、それぞれの支線

長に他の地区と同じく5000円ずつ、会計と支線長に1万円の支払いをしても、7万円程度の予算で十分なのだ。残りの13万5164円があれば、**集金などしなくても十分やっつけていける**ことはすでに他の地区で証明済みだ。連絡をとったすべての生産者は「昔からやっていたから文句は言わなかったけど、何かおかしいよね?」という。

4000円だと生産者の器の話

そこで「なぜヘクター当たり4000円を集めるのか?」と質問したが、支線長から「お金を集めない支線はあるのか?」と逆に質問をされた。私は「自分が所属する支線ではお金のやり取りは記憶がない」と伝えたが、「それはあなたの地区の話だよ」と軽くかわされたので、調べてみた。私の担当する支線は他の地区にもあり、たとえば21支線では「各自から徴収しなくても土地改良区からは十分な助成金をいただいているので、各支線の連絡係に5000円ずつ支払っても予算は十分に余裕ある」と関係者から聞いた。

この8分区にかかわる関係者7名は他の地区の支線にも関わっているので、各自に確認をとってみた。事実関係が分かったので、現在は靖国に合祀されている巣鴨ブリズンでA

級戦犯7名が絞首刑になった12月23日に、支線長に「15支線、21支線、19支線ではお金の徴収はありません」とやはり24支線の運営は不思議ちゃんであることを伝えた。

年が明けた1月14日、11時から始まる24支線の新年会で報告することをお約束していたのだが……、機が熟した新年会には私を除いて10名が参加となった。葬祭の時にお悔やみとしての支払いはあるが、私の担当する8分区を除く、用水開通式に神主・玉ぐし料、副支線長にも手当が出されるなどの説明があった。多くの他の地区のように簡素化を提案した意見と今まで通りの不思議ちゃんスタイルのやり方で良いかの意見を集めたが、10名全員変化を求めないことで決まった。

4000円ごときで大きさに騒ぎ過ぎで、小さい人間だと思いませんかだつて? ハイ、その通り

なのでしょね。私は生産者であり政治家でも、団体職員でも、コメントーターでもない。自分ができる範囲で直していきましようということだ。ヘクター当たり4万円のことであれば土地改良区の理事の仕事で、40万円であれば農協理事、400万円であれば市町村議員、4000万円

であれば都道府県議員、4億以上だと国会議員のお仕事で、400円だと生産者の器の話である。ん、一桁違うか?

ローカル・ルールではよくある話で、**本来であれば必要ないかもしれない不思議ちゃん組織**なのに、まるで水を得た魚のごとく、選ばれたご立派な仕事なのだと思われる姿はいったい何様なのか。一度、国土から200海里離れて20mm機関砲搭載の海上保安庁の巡視船と、尖閣諸島国防の旅に行かれたほうが良いのではないかと、ここに愚言申し上げる。

このような組織の成り立ちは24支線の記録簿を見るとコンクリート・パネルをどうした、電柱杭を移動したなどの記述があり、時が経つとまったく活動の体を成していないようだ。ただ、お金を集めてジנגスカンを食べた、バナナを買ったなど、ほとんど宴会の延長のようでもあり、やはり疑問に感じた7年前の同じ会計を担当したときに「おやつを廃止を申し出して実現させたが、今回と同じくギャー・ギャー騒がれた。その時に強い口調で言われたことを今でも覚えている。『**去年と同じことをやっつけていれればいいんだ!**』あの世に存在するかわからない置き土産として残された。